

# 暮らしを拓く

千葉県障害者グループホーム等支援事業 連絡協議会 広報紙

ハーモニー  
ホーム  
ず



## 発達障害者をGHで支援する

一口に発達障害と言っても様々な特性の強弱と程度があります。GHに入居している方は発達障害の特性をお持ちの方も多く、支援に戸惑う場面も多く見られます。千葉県発達障害者支援センターCAS（キャス）では、個別のご相談への対応、関係機関へのコンサルテーション、普及啓発研修等を行なっています。今回はGHからの相談にも多くのつて頂いている、田熊さんにお話を伺いました。

## かんどう 巻頭インタビュー



## 千葉県発達障害者 支援センター

た く ま り つ  
副センター長 田熊 立

住所：我孫子市本町3-1-2 けやきプラザ4階  
電話：04-7165-2515



自閉症や発達障害に対する知識と愛情の深さに、いつも、感嘆させられます。

開設当初から社会福祉法人菜の花会が事業委託を受けて運営

千葉県発達障害者支援センターの役割と機能

## 強度行動障害のある方の支援者に対する研修

千葉県発達障害者支援センターでは、強度行動障害のある方への支援を適切に行うために、施設支援員に対して強度行動障害についての理解を深めることを目的とした研修等を実施しています。



強度行動障害のある方の支援者に対する研修

詳しくは右のURLからHPへ移動して下さい。

どのような相談が多いですか？

ご本人や保護者からの電話相談が多いです。育児や保育、学校不適応、思春期、生きづらさなどの悩みです。「夫が発達障害ではないか？」といった相談も寄せられます。本人の特性がどう影響しているかの観点からアドバイスするようにしています。

ををしています。このようなセンターは全国に87か所あり、千葉県は市が直接運営しています。事業内容は相談支援・発達支援・就労支援・普及啓発の他、行政や事業所のバックアップ（相談、支援会議への出席、コンサルテーション、講師派遣など）も行っています。教育や放デイなどの福祉サービスの利用、就労、家庭生活を送るうえで、発達障害としての特性がどのように影響しているのか、そして、特性によるマイナスの影響をなるべく少なくして、強みとして活かしていくためにどうしたら良いのかを相談支援していきます。

事業所からも、利用者さんの行動の問題で呼ばれることが多いです。まずはじっくりと聞き取りを行い、支援記録を読み、行動分析を行います。事業所の

個人としての課題と社会の側の構造的な課題とがあると思いますが、個人の課題に見えることも実は社会の側の課題であることがあります。例えば、車椅子の人が電車に乗れないからと言って、車椅子の人が悪いとは言いませんよね。発達障害も同じです。「あの子は発達障害だから（そういう行動をとる）」ではなく、その背景にどのような特性が影響しているのかを理解することが大切です。例えば、掃除が出来ないという背景には変化が苦手で捨てられないのか、計画的に行動するのが苦手で掃除を始められないのか、掃除の手順そのものか思い浮かばないのか等々、それぞれ違います。時には、ゴミ箱にフタがついていると捨てなかったのに

セスメントも行います。やることは100%環境調整です。

## 障害者の暮らしの場面に おける現状と課題

個人としての課題と社会の側の構造的な課題とがあると思いますが、個人の課題に見えることも実は社会の側の課題であることがあります。例えば、車椅子の人が電車に乗れないからと言って、車椅子の人が悪いとは言いませんよね。発達障害も同じです。「あの子は発達障害だから（そういう行動をとる）」ではなく、その背景にどのような特性が影響しているのかを理解することが大切です。例えば、掃除が出来ないという背景には変化が苦手で捨てられないのか、計画的に行動するのが苦手で掃除を始められないのか、掃除の手順そのものか思い浮かばないのか等々、それぞれ違います。時には、ゴミ箱にフタがついていると捨てなかったのに



我孫子駅徒歩1分にある「けやきプラザ」我孫子市の様々な行政サービス窓口が入っている。

## 行動障害者支援サポーター派遣事業

生活介護、共同生活援助、入所支援を実施している事業所からのご依頼に応じて「強度行動障害のある方の支援者に対する研修」の修了者を行動障害者支援サポーターとして派遣する事業を行なっています。詳しくは右から。



行動障害者支援サポーター派遣事業

フタを取ったら捨てられるようになったという方もいました。

社会の側の課題は、地域生活を送るための移動や居住系サービス不足、そして、皆さんの現場であるGHに暮らしの場そのものの不足です。行動上の課題がある方の住まいは特に深刻です。集団適応が難しいためアパートで一人暮らしという例もあります。非常時に備えて夜間もヘルパーが入る必要があり、お金がかかるのと騒音問題とで厳しい面があります。逆にGHの方が落ち着いて生活できるといってもいいです。

強度行動障害を理由に入居を拒むのはGH側の問題なのではなく、GHを支える制度や仕組みがないから。どのような体制

なら受け入れられるのか、課題を整理する必要があります。

## CASと障害者GHとの連携事例を教えてください

先日、基幹相談からのご依頼で支援会議に参加しました。GHで大声・家財の破壊・他の人の居室に無断で入るなど、行動上の課題のある方でした。対応に苦慮しているGHですが、日中を過ごす生活介護事業所ではこのような行動が見られないという事でした。そこで生活介護事業所に向いて行動観察を行いました。その後は、対象の方の特性、その特性とのミスマッチを生じている環境側の要因、その要因を取り除くために活かせるご本人の強み、GHの強み、活用できる福祉サービスについて整理しました。会議の参加者でご本人の特性を共有し、対応を話し合いました。GHと通所先との連携は大事です。GHに帰ったら居室に入っていたと、ではなく、通所先同様に共有スペースで過ごしていたと問題行動がなくなったという例もあります。

## GHでの支援が難しいとされる利用希望者に、どのようなアプローチをとるべきでしょうか？

基本は、「アセスメント、支援計画の見直し、実施後のフォローアップ」だと思います。センターでは、行動障害者支援サポーター派遣事業を実施しています。当センターで実施している「強度行動障害のある方の支援者に対する研修（16人研修）」を修了した方を、他の事業所に派遣する事業です。サポーター登録者数は100名。是非、この派遣事業をご利用ください。

行動関連項目、18点以上の重度の強度行動障害のある方については、県の「暮らしの場支援会議」に「暮らしの場支援会議」につなげば受け入れ先が決まるといいますが、支援にかかる人件費の半分を市が負担しなければならなかったり、登録事業者数が少なかったりと、課題は多いです。

## 田熊さんが障害者GHに求めるものはありますか？

ご存知の通り、強度行動障害のある方や集団生活が苦手なGHでの生活に適応出来ない方がいらっしやいます。その方の特性を理解し、一人ひとりの生活の場を作り上げのお手伝いをさせていただければと思います。必要でしたら気軽にご連絡を下さい。お待ちしております。

取材を終えて：

田熊さんは2003年の入職以来、21年の長きにわたり今の職にありま。福祉業界に限らず法人内の異動は付きものですが、「この仕事は長くやってこそネットワークが広がり情報も集まる。時間に価値がある仕事なのです。法人が専門性を認めてくれる。法人の方針なのです」とのこと。「相談業務に携わっている方たちにも仲間や居場所が必要。ストレスが溜まっていることを自覚してほしい」ともおっしゃっていました。



障害者支援センター  
連携セミナー  
千葉県発達障害者支援会  
研修会



千葉県発達障害者支援センター





開所してから3年目を迎え、40代の方を中心に現在10名の女性の方が暮らしています。入居の理由は生活のしずらさを感じていたり、少しのお手伝いがあれば暮らしていけると考え



新築で定員10名。ドアや壁紙がオシャレ

今号から始まった新コーナー！ご飯にこだわりのあるGHを訪問し、食事や支援に対する思いを聞かせていただくコーナーです。今回は鎌ヶ谷市にある、清潔感溢れる素敵な女性棟にお邪魔させていただきました



**わおん YMA**  
まつい 松井 和輝 さん  
オーナー

住所：鎌ヶ谷市西佐津間2-19-37  
電話：047-404-1551  
メール：kazuki19971129@gmail.com



オーナー松井さんは20代！世話人さんと一緒に食事を作ってます

ている方々です。開所当初は日々の食材を買い出していたのですが、今は宅配業者の栄養バランスを考慮したメニューに沿って晩ごはんの食材を届けてもらっています。朝食は私がメニューを考えて、買い出した食材で世話人さんに調理してもらいます。朝食は300円、夕食は600円。昼食は日中活動先で食べたり、ご自身で購入したり、又はお料理好きな方は、食材を買ってきて世話人さんと一緒に調理をされています。休日のメニューは皆さんのリクエストを聞いて作っています。最近ではたこ焼きパーティーをしました！200個分のたこ焼き粉を買ってきてタコとウインナー、キムチ、チーズなどそれぞれ好きなものを入れてわいわいと作って食べました。入居者同士が仲良くなれる時間でもあります。



私は大学の福祉学部を卒業後、高齢者施設に勤めていました。その後障害者GHを開設しましたが、入居されていた高齢者の方と仕事で出会う障害者を持っている方との違いが、GHを始めた頃は難しいなと戸惑う事が多くありました。精神の病気を抱えている方は、嫌な記憶が心を苦しめていたり、些細な事で傷ついたりすることがあるとわかり、徐々に入居者の病気の理解から個人の理解へとすすんでいきました。今では、入居者の皆さんが共同生活で楽しく過ごせるようにお互いの事を思いあえる仲間になりました。通所する事が難しい方に対して、目標を設定し達成感を味わえる工夫（スタンプカード）をしたことで、日中活動に参加できるようになりました。利用者さんイチオシのメニューは、オムライスの上にピーフシチューをかけた料理です。これは体験利用時に提供したのですが、今でも作ってほしいと言われる人気メニューです。私は大学時代に一人暮らしをしていた時に料理を覚えた程度な



みんなのアイドル！保護犬だったトイプードルのリアンちゃん



思っています。支援という部分もありますが食事はこれからはこれからこだわっていききたい

のですが、もともと料理は嫌いではなかったのですが、苦になることは全くありません。利用しているレシピは、以前勤めていた「こだわりの手作り料理」を提携する高齢者施設のレシピです。私が独立する際に、施設長から門外不出のレシピをお祝いにとプレゼントされました。出会ってきた人との繋がりを大切にしているので、利用者の皆さんも他の入居者の事を大切に思っていて接してくれていると感じています。人間が生きていくうえで食事はとても大切だと考えています。支援という部分もありますが食事はこれからはこれからこだわっていききたい



**わおん YMA**  
Instagramはこちら

**わおん YMA**  
詳細はこちら

# きとあいらく 起努逢楽

各圏域の新人GH等支援ワーカーを紹介します

長生夷隅圏域  
君津圏域  
君津圏域  
松戸圏域

たけむら りょうたろう  
竹村 亮太郎  
はぎの めぐみ  
萩野 恵  
きびの みか  
黍野 美香  
かねもと まほ  
金本 真帆

長生ひなた 竹村亮太郎

これまで自立相談支援センターで生活困窮者支援を担当しており、今年からは兼務となります。困窮者支援をしている中で住居環境も生活に与える影響が大きいと感じてきました。生活の土台を支える大切な仕事です。ので、気を引き締めて頑張ります。まずは先輩ワーカーについて圏域のグループホームや関係機関について学びを深めるところからと思います。これからよろしくお願いいたします。



君津ふくしネット 萩野恵

初めまして。4月から君津圏域のGHWとなりました萩野です。相談支援と兼務なのですが、自分に出来ることを精一杯

やりたいですし、色々な方々と繋がれることや知識を学べる機会でもあるのでとても楽しみです！  
これから宜しくお願い致します



君津ふくしネット 黍野美香

東京で生まれ沢山の犬に囲まれ育ち、横浜では乳幼児に囲まれる職に就き今は障害福祉一色。いつか又しっぽのあるモフモフ達を溺愛する生活を夢見、波乱万丈でしたがこの世界へのきっかけをくれた娘と毎日を笑って過ごせる有難さを噛みしめています。相談支援との兼務ですが多くの学びを得て成長していきたいと思っておりますので宜しくお願いいたします。



えるあいサポート 金本真帆

昨年度までは松戸市にある地域活動支援センターI型で生活支援員をしていました。グループホームでの支援の経験はありませんが、通所されている利用者さんからグループホームでの生活の様子や悩みを聞く機会があり、生活の基盤となるグループホームはその方にとって大き

な影響を与える場所なのだと感じていました。今後はグループホームへの学びを深め、様々な課題に対して一緒に考えていけるGHWになれるように頑張りたいと思っています。



## きこうしゅうへん 後記編集



2024年度から、千葉県内の障害者グループホーム等支援ワーカーの人数が今までより2倍に増えました。そして各圏域の新しい仲間になった方々を今号から順次『起努逢楽』のコーナーで紹介させてもらいます。

全国的に障害者グループホーム（以下GH）は増加傾向ですが、入居者が安心して生活できる住居なのか？と問われるような社会問題も起こっています。千葉県には幸いにもGHに特化して支援する私達が存在し、GHの支援力を強化するための勉強会や講座の回数を昨年より増やしていきます。そしてコロナ禍以降日常になったりモートも利用しながら多くのGH関係者に届くようにしたいと考えています。また、孤立化し

## こんごう だいじ 今号の題字



やすいGHの現場の職員さんと顔の見える関係を築けるように訪問回数を増やし支援の困りごと等の相談相手として信頼してもらえ存在でありたいと願っています。  
色んな人と出会える障害者グループホーム等支援ワーカーの仕事は多岐にわたります。今春から新たに加わった12名の新人に対して色んな角度から毎月研修会が行われます。実践でも先輩と共に動きながら経験を積まれていくことでしょう。とても心強い仲間が増えました。  
広報紙面をご覧になっていただいている皆様にも、毎号活動の結果が私達の愛と共に届いていると嬉しいのですが。



## 社会福祉法人 野田みどり会 ハーモニーホーム

重度高齢化に対応した日中サービス支援型のGH。車椅子の方でもゆったりと過ごしやすい設備と環境が整えられており、野田を支える重要な社会資源の一つです。



千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会  
暮らしを拓く  
52号

発行 / 千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会事務局  
TEL / 0478-79-6919  
MAIL / katori@chibaghgw.org  
発行日 / 令和6年(2024年)6月22日  
編集 / 連絡協議会広報班